

平成 20 年度(2008 年度) 船の科学館 基盤整備事業 事業報告書

1. 学芸振興活動

(1) 「宗谷の一般公開」

「宗谷」の乗船者数及び公開日数は、次のとおりであった。

- ・本年度の乗船者数 101,894名
(うち、本館には入館せず宗谷だけを見学した乗船者数1,912名)
- ・公開日数 301日
- ・当館の休館日及び保存整備工事に伴う未公開日数 64日

(2) 「羊蹄丸の一般公開」

「羊蹄丸」の乗船者数及び公開日数は、次のとおりであった。

- ・本年度の乗船者数 67,070名
(うち、本館には入館せず羊蹄丸だけを見学した乗船者数1,799名)
- ・公開日数 319日
- ・当館の休館日に伴う未公開日数 46日

(3) 図書関係

昨年度に引き続き、図書(逐次刊行物を含む)の充実を図り、読書ルームを一般公開した。

- ・公開日数 319日

(4) 資料の受入

本年度においては、次のとおり資料の受け入れを行った。

- 購入・制作資料 模型 カラフト犬「タロ」実物大模型他46件
- 寄贈・寄託資料 船舶模型 観光丸他119件

(5) 資料の貸出

三菱重工業(株)名古屋誘導推進システム製作所

貸出資料：二式大型飛行艇火星22型エンジン 2基

期 間：平成20年4月1日～平成21年3月31日(継続)

青森県立郷土館

貸出資料：羊蹄丸の航海日誌他 2点

期 間：平成20年4月24日～平成20年7月14日

東京湾岸警察署

貸出資料：船舶模型 カティーク 他 2 点

期 間：平成 2 0 年 4 月 1 日～平成 2 1 年 3 月 3 1 日（継続）

特定非営利活動法人 語り継ぐ青函連絡船の会

貸出資料：青函連絡船 船長制服 1 点

期 間：平成 2 0 年 9 月 1 9 日～平成 2 0 年 1 0 月 9 日

横浜市歴史博物館

貸出資料：水戸藩建造の洋式軍艦“旭日丸”絵図 1 点

期 間：平成 2 1 年 1 月 2 1 日～平成 2 1 年 4 月 4 日

(6) 写真資料の貸出

出版会社等への写真資料の貸出等を行った。 2 4 件 5 5 点

(7) 博物館活動への参加

博物館相互の関係を密接にするため、各種博物館活動に参加するとともに類似博物館などと交流を図った。

(8) 催事等の開催

ワールド シー ワールド

海での安全と防災意識及び海と船への興味・関心の高揚を目的として海上保安庁、東京消防庁による水難救助訓練のデモンストレーション、プレジャーボート及びシーカヤックの体験乗船教室、小型船舶操縦免許情報コーナー、ギャラリートーク等で構成する複合型イベントを実施した。

開催期間：平成 2 0 年 5 月 3 日(土)～5 月 5 日(月・祝) 3 日間

開催場所：船の科学館、羊蹄丸及び周辺海域

参加者数：9, 0 4 4 名

君も、一日海上保安官になろう！

海上保安の日にちなみ、東京海上保安部の協力を仰ぎ小学生を対象に巡視艇“まつなみ”による東京港内の巡視体験等を実施した。

開催期間：平成 2 0 年 5 月 1 0 日(土) 1 日

開催場所：船の科学館、羊蹄丸及び東京港

参加者数：7 7 名

第61回 東京みなと祭

昨年度までの晴海地区に加え船の科学館を中心とした青海・台場地区を「海と船」の体験ゾーンとして、プレジャーボート・打瀬船・カッターの体験乗船やくるみの帆船工作、手旗・ロープワーク体験等の各種教室を実施した。

開催期間：平成20年5月24日（土）、25日（日）

開催場所：船の科学館 羊蹄丸及び周辺

参加者数：2,000名

宗谷竣工70周年記念企画 桜林美佐さんによるひとり語り「歌でつづる“宗谷”」

保存展示している初代南極観測船“宗谷”が竣工して70年にあたる記念すべき年である今年度、作家・キャスターとして活躍している桜林美佐さんによるひとり語りの会「歌でつづる“宗谷”」を実施した。

開催期間：平成20年6月8日（日）

開催場所：船の科学館 1階オーロラホール

参加者数：110名

セーリングカヌー体験乗船教室

プロセーラー、西村一広氏を代表とする Team Nishimura Project 及び東京海洋大学ヨット部OBの協力を得て、セーリングカヌーの体験乗船を行った。

開催日：平成20年6月22日（日）、7月20日（日）、9月7日（日）

10月19日（日）、11月9日（日） 5日間

開催場所：宗谷・羊蹄丸中間水域

参加者数：300名

臨時「海の相談室」

海上保安庁創設60周年記念企画展「海をまもる」の開催に合わせ、同企画展会場の一部を使用して、海に関する質問の受付や誕生日の潮汐表プリントサービスを実施した。

開催期間：平成20年7月20日（日）、21日（月・祝） 2日間

開催場所：船の科学館 3階マリタイムサルーン

参加者数：344名

海洋教室

海上保安庁海洋情報部の協力を得て、海図を作成する為の水深や底質を実際に測量鉛を使って調べる体験型の教室を開催した。

開催期間：平成20年7月20日(日)、21日(月・祝) 2日間

開催場所：“宗谷”係留桟橋

参加者数：75名

海の安全教室

海上保安庁東京海上保安部の協力を得て、救命筏の展示をはじめ、救難食料の試食や特殊救難隊制服を着用しての記念撮影を実施した。

開催期間：平成20年7月26日(土)、27日(日) 2日間

開催場所：船の科学館 本館3階マリタイムサルーン

参加者数：2,827名

海図等の展示

明治から現代までの東京湾測量図や伊能忠敬の測量図の複写を展示した。

開催期間：平成20年7月19日(土)～27日(日) 9日間

開催場所：船の科学館 3階マリタイムサルーン

参加者数：9,530名

測量船“明洋”一般公開

海上保安業務への理解を促進するため、普段は乗船する事ができない海上保安庁の測量船を一般公開した。

開催期間：平成20年7月27日(日) 1日

開催場所：航海訓練所専用桟橋

参加者数：173名

第3回 お台場海浜公園 de いきもの観察会

海と環境への興味や関心を深める一助とするため、お台場海浜公園の生物を採捕しての観察会を実施した。

開催期間：平成20年8月1日(金) 1日

開催場所：お台場海浜公園水辺

参加者数：12名

展示会「戦後海難の歴史と再発防止への取り組み」

社団法人 日本海難防止協会創立50周年記念イベントとして、戦後日本の代表的な海難及び事故発生当時の社会情勢や世相、海難に関連したその後の取り組みなどを展示した。

開催期間：平成20年8月1日（金）～31日（日）

31日間

開催場所：羊蹄丸アドミラルホール

参加者数：4,249名

第2回 造船所見学会 ～巨大な“ものづくり”現場～

小学生及び中学生を主な対象に、造船や船舶への興味や関心を喚起することを目的に、造船所の見学会を実施した。

開催日：平成20年8月19日（火）

1日

開催場所：三井造船株式会社 千葉事業所

主催：船の科学館 三井造船株式会社、社団法人日本船舶海洋工学会

参加者数：34名

帆船模型工作室「夢工房」

木製帆船模型同好会「ザ・ロープ」との連携事業として、模型制作作業を通して、制作方法、使用器具、行程などを広く一般の見学者に紹介した。

開催期間：平成20年4月～平成21年3月の各土・日曜日

開催場所：青函連絡船“羊蹄丸”ギャラリー

講談「南極第一次観測隊物語」

講談師 宝井梅星氏が、初代南極観測船“宗谷”にまつわる物語を、臨場感溢れる講談にして来館者に伝えた。

開催期間：平成20年4月20日（日）～平成21年3月22日（日）

10回

毎月1回（8月・12月を除く）

開催場所：船の科学館 本館宗谷側玄関前等

参加者数：117名

海の男のギャラリートーク

海洋会船の科学館ボランティアグループに所属する元船長等が海や船の現場で培ってきた経験談を語った。

開催期間：平成20年7月19日（土）～10月25日（土）

22回

開催場所：船の科学館展示場内

参加者数：462名

海の男のギャラリートーク～奇跡の船“宗谷”～

初代南極観測船“宗谷”の元乗組員が当時の実体験やエピソードを語ることにより、“宗谷”保存と南極観測の意義を理解してもらうことを目的にギャラリートークを開催した。

開催期間：平成20年11月1日(土)～12月13日(土) 7回

開催場所：南極観測船“宗谷”船内

参加者数：146名

アホウドリギャラリートーク

海洋環境や海鳥保護の重要性について理解を深めることを目的に、企画展「未来へはばたけ、アホウドリたち～写真展～」と連動したギャラリートークを開催した。

開催日：平成21年1月11日(日)、1月18日(日)、1月25日(日)3回

開催場所：船の科学館 本館3階マリタイムサルーン

参加者数：82名

ボランティアによるミュージアムツアー

本館展示場内を毎回決まったテーマに沿って分かりやすく解説をした。

開催期間：随時

開催場所：船の科学館展示場内

参加者数：2,935名

古文書解読会

青山学院大学片桐一男名誉教授他古文書解読ボランティアグループが、船の科学館所蔵の古文書資料の解読及び基本資料「和漢船用集」の校訂作業を実施した。

開催日：毎月 第二水曜日

開催場所：船の科学館会議室

(9) 共催・後援・協力事業

「海」や「船」及び「環境」などをテーマとした各種事業に共催・後援・協力などを行い、海事科学知識の普及、啓発に努めた。

ミニボートフェスティバル2008 in 船の科学館

開催期間：平成20年5月17日(土)、18日(日) 2日間

開催場所：船の科学館 シーサイドプール

主催：社団法人日本舟艇工業会

入場者数：1,299名

東京海洋大学 第48回海王祭 「くるみの帆船工作教室」及び「ミニ船の博物館」

開催期間：平成20年6月7日(土)、8日(日)

2日間

開催場所：東京海洋大学越中島キャンパス

主催：東京海洋大学 海王祭実行委員会

来場者数：246名

「花・人・土佐・出会い博～海のフィールド・ミュージアム“柏島”」PRイベント

さとうみ教室 in お台場

開催期間：平成20年6月28日(土)、29日(日)

2日間

開催場所：羊蹄丸アドミラルホール

主催：高知県

参加者数：2,145名

横浜国立大学オープンキャンパス

開催期間：平成20年7月30日(水)～8月4日(月)

6日間

開催場所：横浜国立大学

主催：横浜国立大学

第45回 関東地区中学生海の絵画コンクール

開催期間：平成20年7月25日(土)～8月3日(日)

10日間

開催場所：船の科学館 本館エントランスホール

主催：社団法人関東海事広報協会 財団法人日本海事広報協会

来場者数：9,664名

船の科学館水ものフェスティバル2008

開催日：平成20年9月7日(日)

1日

開催場所：船の科学館 シーサイドプール

主催：船の科学館水ものフェスティバル実行委員会

参加者数：60名

沖ノ鳥島フォーラム2008

ア．特設展示(プレイベント)

開催期間：平成20年10月18日(土)～11月7日(金)

20日間

開催場所：羊蹄丸エントランスホール

主 催：東京都産業労働局農林水産部

イ．フォーラム～沖ノ鳥島から考えよう！海の大切さ～

開催期間：平成20年11月8日(土) 1日

開催場所：船の科学館 本館1階オーロラホール

主 催：東京都産業労働局農林水産部

参加者数：224名

第15回 豊洲フェスタ

開催期間：平成20年10月26日(日) 1日

開催場所：江東区豊洲文化センター

主 催：財団法人江東区地域振興会 江東区豊洲文化センター

参加者数：206名

未来へはばたけ、アホウドリたち ～写真展～

開催期間：平成20年11月15日(土)～平成21年2月1日(日) 66日間

開催場所：船の科学館 本館3階 マリタイムサルーン

主 催：朝日新聞社 山階鳥類研究所

参加者数：26,458名

商船模型同好会作品展「船の手作り模型」

開催期間：平成20年11月22日(土)～24日(月) 3日間

開催場所：船の科学館 本館1階オーロラホール

主 催：商船模型同好会

入場者数：486名

親子プラモデル教室

開催期間：平成20年11月23日(日) 1日

開催場所：羊蹄丸アドミラルホール

主 催：株式会社 ハセガワ

参加者数：61名

出前授業

開催期間：平成20年11月25日(月)、26日(火)、27日(水) 3日間

開催場所：かえつ有明中学校

練習帆船“海王丸”見学会

開催期間:平成20年12月20日(土) 1日

開催場所:“海王丸”船内及び航海訓練所専用棧橋

共催:独立行政法人 航海訓練所

参加者数:116名

講演会「アホドリ未来への飛び立ち」

開催期間:平成20年12月20日(土) 1日

開催場所:船の科学館 本館1階 オーロラホール

共催:東邦大学 理学部

参加者数:210名

商船教育創始者:近藤真琴・岩崎弥太郎展

開催期間:平成21年1月10日(土)～25日(日) 16日間

開催場所:羊蹄丸 エントランスホール

主催:商船教育創始者展 実行委員会

来場者数:2,757名

練習帆船“海王丸”出航式見学会

開催期間:平成21年1月10日(土) 1日

開催場所:“海王丸”船内及び航海訓練所専用棧橋

共催:独立行政法人 航海訓練所

参加者数:52名

艦船模型サークル「ミンダナオ会」作品展示会

『欧州海軍艦艇史 魅惑のヨーロッパネイビー』

開催期間:平成21年2月7日(土)、8日(日) 2日間

開催場所:羊蹄丸アドミラルホール

主催:艦船模型サークル「ミンダナオ会」

入場者数:662名

みなとの博物館ネットワーク・フォーラムクイズラリー

開催期間:平成21年3月1日(日)～4月12日(日) 43日間

開催場所:船の科学館他みなとの博物館ネットワーク加盟館12館

T S M C 創立 5 5 周年記念展示会「手作り飛行機 奥深い趣味の世界」

開催期間：平成 2 1 年 3 月 1 7 日(火)～3 月 2 2 日(日)

6 日間

開催場所：羊蹄丸アドミラルホール

主 催：東京ソリッドモデルクラブ

参加者数：9 7 9 名

第 2 0 回「全国児童水辺の風景画コンテスト入賞作品展示」

開催期間：平成 2 1 年 3 月 2 0 日(金・祝)～4 月 5 日(日)

1 7 日間

開催場所：船の科学館 本館 3 階マリタイムサローン

主 催：財団法人 ヤマハ発動機スポーツ振興財団

来場者数：1 1 , 5 3 8 名

2 . 「 1 0 0 年構想プロジェクト」事業

船の科学館は、平成 1 9 年 7 月 2 0 日の「海の記念日」に施行された海洋基本法や海洋基本計画の閣議決定に象徴されるように、「海に守られた日本から、海を守る日本へ」と、わが国における海洋への取り組みが大きな転換期を迎えるなか、海洋国家日本の首都東京に位置し、海洋新時代に相応しい海洋博物館を目指した将来構想を企画立案するために下記の業務を行った。

なお、本構想実現のための特定資金として、日本財団より 2 0 億円の助成金の交付を受けた。

(1) 改築計画のための基本コンセプトの策定

船の科学館改築基本計画のための基本コンセプトを策定した。

(2) 博物館活動に係る基礎情報の収集

日本の海事関連博物館における図書室データ、賛助会員データ、リニューアル事例のデータを収集した。

(3) 展示基本計画及び建築基本計画策定の準備業務

展示基本計画及び建築基本計画の策定に向けて、それぞれの協力事業者の選定を行った。

平成 2 0 年 1 1 月 1 日 基本計画策定協力事業者の選定にあたり、公正性、透明性、客観性を確保できる業者選定方法を調査・検討した結果、選定方法はプロポーザル方式に決定した。

平成 2 0 年 1 1 月 2 6 日 「展示基本計画」及び「建築基本計画」策定協力事業者選定審査委員会を設置するとともに、審査委員を選定した。

平成21年 2月 4日 第1回「展示基本計画」及び「建築基本計画」策定事業者選定審査委員会を開催した。(審査内容は展示及び建築)

平成21年 2月 9日 第2回「展示基本計画」及び「建築基本計画」策定事業者選定審査委員会を開催した。(審査内容は展示)

平成21年 2月18日 第3回「展示基本計画」及び「建築基本計画」策定事業者選定審査委員会を開催した。(審査内容は建築)

平成21年 3月10日 展示基本計画及び建築基本計画策定協力事業者を選定し、委員及び事業者に通知した。

(4)所蔵資料のデータベースの整理

今後の資料・情報収集の基本方針を策定するための準備として、所蔵資料のデータベースの整理を行った。

(5)国内外の有識者からの情報収集及び類似施設調査

新海洋博物館の施設・展示・運営の参考とするために、国内外の有識者からの情報収集及び類似施設等の調査を実施した。

国内有識者からの情報収集

実施日：平成20年6月25日～平成20年10月15日

人数：9名

海外有識者からの情報収集

実施日：平成20年11月12日～20年11月23日

人数：5名

国内類似施設等調査

ア．長崎県美術館、長崎歴史文化博物館、三菱重工長崎造船所史料館、ハウステンボス

実施日：平成20年10月25日～27日

目的：建築、展示手法、展示空間、経営・運営、来館者便益施設、保存船展示
方法等の調査

イ．佐賀県立宇宙科学館、吉野ヶ里歴史公園、九州国立博物館、福岡アジア美術館、
福岡市美術館、福岡市博物館、マリノア福岡

実施日：平成21年3月18日・19日

目的：建築、展示手法、展示空間、経営・運営、来館者便益施設等の調査

* その他類似施設調査等11件

海外類似施設等調査

ア．欧州類似施設調査・7館（含む有識者調査）

期 間：平成20年11月12日～23日 12日間

視察先：デンマーク エスビャー漁業・海事博物館

イギリス 国立グリニッジ海事博物館、大英博物館、SS グレート・ブリテン博物館

ドイツ ドイツ博物館、ハンブルグ国際海事博物館、マージーサイト国立海事博物館

イ．米国類似施設等調査・15館

期 間：平成21年1月11日～18日 11日間

視察先：スチープン・F・ウドバー・ハジー・センター、国立美術館東館、国立美術館西館、国立米国歴史博物館、国立航空宇宙博物館、国立自然史博物館、マリナーズ海洋博物館、ノーチカス海事センター、ハンプトン・ローズ海軍博物館、ポーツマス海軍艦船工廠博物館、シカゴ子ども博物館、シカゴ科学産業博物館、アドラー天文博物館・プラネタリウム、フィールド自然史博物館、シカゴ美術館

ウ．欧州類似施設等調査・21館

全国科学博物館協議会主催の平成20年度海外科学系博物館視察研修に参加し、類似施設等の調査を行った。

期 間：平成21年1月11日～21日 11日間

視察先：ドイツ ペルガモン博物館、旧博物館、ボーデ博物館、ユダヤ博物館、ベルリンの壁博物館、フンボルト大学・ベルリン自然史博物館、楽器博物館、ミュンヘン市立博物館、ヴァレンティン・ムゾイム、ドイツ狩猟・漁猟博物館、おもちゃ博物館、ドイツ博物館・分館

オーストリア ウィーン自然史博物館、エフェソス博物館、古楽器博物館、中世武器博物館、ウィーン産業技術博物館、王宮家具・調度品博物館、ZOOM 子ども博物館、ハウス・デア・ムジーク、演劇博物館

(6) 海外の海事系博物館の基礎データの収集

将来の整備計画の参考として活用するため、国際海事博物館会議の加盟館（略称 I C M M、全加盟館数：90館）の年報、概要資料、パンフレット等の収集を行った。

3. 募金活動

昭和54年5月より、船の科学館前面水域にて一般公開中の初代南極観測船「宗谷」の老朽化に伴い、保存募金活動を平成15年3月より開始し、本年度は1,376,099円、平成21年3月末までの6か年の累計で8,400,246円の寄付金が集り、内4,200,000円を平成17年度の宗谷保存整備事業に充当した。その結果、残額は4,200,246円となっている。

4. 来館者の誘致活動

来館者の誘致活動については、大手新聞社へ前売券の販売、近隣の博物館やアミューズメント施設・マスメディア・公共交通機関との連携による割引入場券の配布、及び都内の博物館・美術館共通入場券販売企画「ぐるっとパス2008」への参加等を行い、入館者の増大に努めた。なお、「ぐるっとパス」の共通入場券を持参しての見学者は4,105名であった。

さらに、官公庁・海事関連団体による展示会・上映会・会議・セミナーの開催を誘致することにより既存ホールの積極的な活用と船の科学館の知名度の向上を図った。

夏期プール営業の入場者誘致活動については、大手コンビニエンスストアチェーン店・近隣宿泊施設での入場券委託販売をはじめ、海事関連団体・企業・大手新聞社への前売り券販売を実施したほか、各種健康保険組合と割引入場契約を締結し利用促進を図った。

5. 広報活動

広報活動における催事及び業務を次のとおり実施した。

(1) 行事の実施

前出の学芸振興活動における「海」や「船」及び「環境」などをテーマとした各種事業への共催・後援・協力のほか、来館者誘致のための広報活動として、日本キャスティング協会主催による「キャスティング初心者講習会」を屋外のシーサイドガーデンにて計6回開催した。

(2) 標識掲出、交通広告の実施

港、江東地区に道路看板を3基継続掲出したほか、新交通「ゆりかもめ」の「船の科学館駅」に案内看板を1基継続掲出した。

(3) 各種広報活動の実施

有効な広報手段である「船の科学館ホームページ」の運営・更新を行うとともに、「月刊教育旅行」等の教育誌及び「東京シーサイドストーリー」、「エンジョイマツプ 沿線ガイド」、「読売新聞」等の宣伝効果が期待できる媒体を利用し、船の科学館の案内広告を掲載した。

船の科学館各種行事案内リリースをマスコミ、インターネット情報サイト等に発信した。

テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等に取材要請をするとともに、撮影、取材、番組制作に協力し、船の科学館の知名度の向上に努めた。

(4) 船の科学館リーフレットの制作及び配布

当館見学希望者への事前案内用及び来館者への見学ガイドとして船の科学館の日本語版リーフレット200,000部を制作した。

6. 諸施設の利用状況

開館34年を迎えた船の科学館は、家族連れの個人客をはじめ、都内・近県及び全国の小、中、高校生の校外学習や遠足及び修学旅行のほか、一般団体、海事団体、障害者団体、高齢者団体等の受け入れを幅広く行うことにより、開館当初よりの目的である海事知識の普及啓発に努めた。

(1) 来館者の施設別利用状況

来館者の利用状況は、有料入館者については、個人145,556人、団体45,187人の計190,743人となり、無料入館者(学生団体の教職員、招待券等)10,348人、「宗谷」・「羊蹄丸」のみ乗船した見学者3,711人の計204,802人の入館があった。この他に、催事・会議・セミナー参加者・施設利用者は159,549人あり、合計で364,351人の来館者があった。

なお、入館者の便益施設の運営形態については、飲食施設のレストラン「海王」は大同企業(株)と施設使用契約、ベイサイドテラス「キャビン」及び売店「マリンショップ」、「プール売店」はノムラデベロップメント(株)との施設使用契約による運営を行った。

(2) プールの利用状況

プールについては、有料入場者は52,494人、招待券持参の無料入場者は5,307人の計

57,801 人の入場者があった。

運営面では、人件費の軽減を図る為、昨年同様に料金所・売店・監視業務・清掃・機械運転の各部門を外部に委託し営業を行った。

なお、シーサイドプールは施設の老朽化等により、夏期における遊泳営業は終了することとし、平成 21 年度以降のプールの活用については、従前より実施しているシーカヤックやボートの体験教室を積極的に開催するほか、教育機関や船舶関係団体、マリンスポーツを行う団体に利用を働きかけ、これら外部の団体と共同で体験教室や催事を実施することとする。